

『今が、歴史を創る時』 個々人がつむじ風を起こそう

第20回 良妻を娶った男は幸せ者になる 悪妻を娶った男は哲学者になる

永田 隆一

表題は、紀元前に、ソクラテスが残した言葉であります。筆者は、この言葉を、現代の日本における政府と国民に置き換えて考えます。

良い政治家を得た国民は幸せになる。アンボンタンの政治家をもった国民は、疲れきってしまう。

日本は、130万人の国家公務員と400万人の地方公務員がいます。公務員の給料総額は、年間で37兆円。現在、国と地方を合わせた税収が77兆円。税収の半分を公務員の給料へつぎ込む国は、増税を決意しました。

経済協力開発機構（OECD）は、今年の4月に対日審査報告で、消費税を20%へ上げることを求めましたし、9月には国際通貨基金（IMF）は、日本の消費税を15%へ上げるよう提言してきました。

筆者は、おおきな違和感を禁じえません。隣に住む町内会長のおじいさんが、『ご主人、月のお小遣いを5万円から2万円に減らして、奥さんへの生活費を3万円増やしてあげたらいかがですか』と言われているように感じます。

さらに、こういった内政干渉すれすれの行動に対して誰も『だまらっしゃい』という声をあげない。

政府から、国民は、なんども、なんども裏切られて、毎年国の元首がころころ変わる国では、国民の精神

が、後戻りのきかない変化をとげてしまったのかもしれないように感じます。無関心、無表情、無感動。

《元気があれば…》

しかし、世の中には、元気で活発なビジネスマンもたくさんおられます。

そこで、自分に元気を下さる人を大切にすることが重要になります。元気や運は、感染（うつる）からです。

筆者は次のような方々から、元気をいただきます。

- 海外を飛び歩いている人（欧米ではなく、最近ではアジア諸国）
- スポーツで、天辺を極めた経験を持つ人（弓道でインターハイ優勝）
- 自分を笑い話の主役にして、周りに大笑いを提供できる人

共通点は、人の気持ちを理解できて、様々な価値観が世の中には存在することを肌で体験されて、バランス感覚を有する方々であります。

もちろん、邪気のない、愛らしい笑顔の子供も（ゲームをやっている子供、これはいけません）

《笑いの効能》

人間は、1日に、およそ5000個のがん細胞が生まれるそうです。しかし、健康な方は、キラー細胞が、この5000個のがん細胞をすべて食べて

くれるので、がんが発症しないのだそうです。そして、キラー細胞の天敵が、ストレスであります。

キラー細胞を元気に増やすには、笑いが一番効果的なのだそうで、データで証明されている事実であります。

《笑いをあなたに》

「あたかも」を使って文章を作りなさい。

「財布の中に、まだ1万円があたかも」（誤用例）

「いかの次女焼きください」は、「姿焼き」の誤り。手書きで、わざと伸ばして書いた主人に座布団を。

M社の鈴木取締役、「美しいお嬢さんですね、キスしてよろしいか?」「えっ、股にしてください」。それは、又の間違えですよ。また、最近ゴルフを始めて、「どうしてもラフの方に、行ってしまいます」。筆者にはどうしても、「裸婦」に聞こえてしまいます。「出張が続くので、受取日は8日以後でお願いします。」「えっ、お客さんは、要介護ですか? 見えませんが」

しっかり、お笑いをいただきました。日々のビジネスに邁進していただきたくお願いいたします。

（毎月掲載）